

# 韓国東南部梁山（Yangsan）断層

星野一男(燃料部)・村岡洋文(地殻熱部)  
Kazuo HOSHINO Hirofumi MURAOKA

韓国南部のLANDSAT映像で最も目立つのは東海岸に近くほぼ海岸線に平行に走る梁山（Yangsan）断層である。

梁山断層が発達する慶尚盆地は白亜系の慶尚層群より構成されその東縁日本海沿岸には第3紀層が重なっている。これらの白亜系および第3系は日本の北九州および山口県下の同

時代層と岩相がよく似ており両者は一連の堆積盆地の地層と考えられる。

著者らは工業技術院ITITプロジェクトによる韓国との共同研究計画の下に1980—81年に梁山断層附近のLANDSAT映像解析および簡単な現地調査を行った。

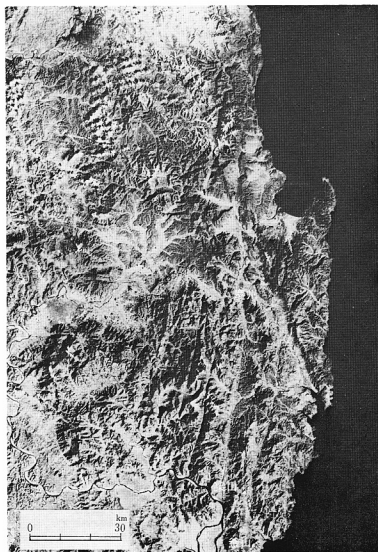


写真1

韓国東南部のLANDSAT映像。梁山断層は映像上では約200kmの長さに亘って発達し、幅約30kmの間に数本の平行リニアメントを伴っていることが認められる。この断層系は最近の海域調査をも併せ検討すると更に対島の西方を通り、五島列島西方海域にまで続くと考えられる。梁山断層系は日本海と東支那海の地質的境界として重要な構造要素であることが最近明らかになりつつある。



写真2 慶州の北約30kmの地点で北方に見る梁山断層(遠景山岳の中央)。LANDSAT映像で非常に綺麗なリニアメント模様を呈しているように地表では本図のように幅広い明瞭な断層谷を形成している。



写真3 梁山断層は北部では約200から500mの幅で白亜系砂岩の中に破砕帯を形成し、その中央約10mほどとくに破砕が激しい。本図は写真2の断層谷中の露頭で破砕帯のほぼ中央における主要断層の外観を示す。断層面の走向はN10°E、傾斜は60°W、20°S落ちの滑りあとがあり水平ずれ断層であることを示している。

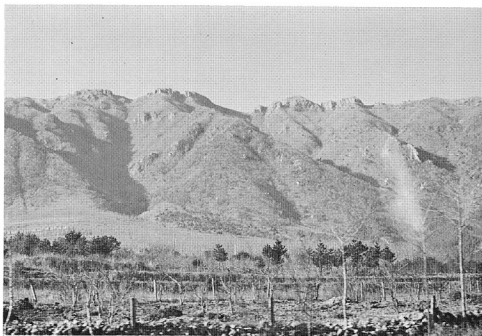


写真4 梁山断層を南に追うと歴史上有名な古都慶州を通り 釜山市の北北西約20kmの梁山に至る。この間幅  
 ほぼ1kmに達する河谷を形成している。本図は梁山付近の断層崖である。

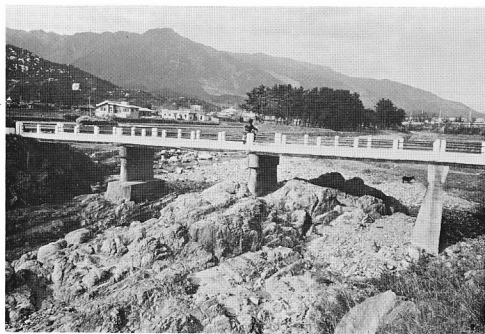


写真5 梁山川に沿って本図のように梁山断層(帯)の主断層が発達している。岩石は白亜系(慶尚層群)砂岩  
 である。本図の範囲には北北東—南南西方向の断層が数本見られ、悉くが断層粘土、礫断性割れ目を  
 伴っている。梁山の北北西約20kmの地点。



写真6

梁山断層の主要活動期は白亜紀末から第3紀初期と考えられる。梁山断層の東側では白亜系砂岩に不整合ないし非整合に重なる新第3系 Yonil 層群(迎日層群)礫岩が分布する。図は写真3より(ほぼ2km 西の地点)における露頭で両者の関係を示す。両層中とも本図のように南北性の小断層が発達しており、新第3紀にも梁山断層の活動があったことを示している。

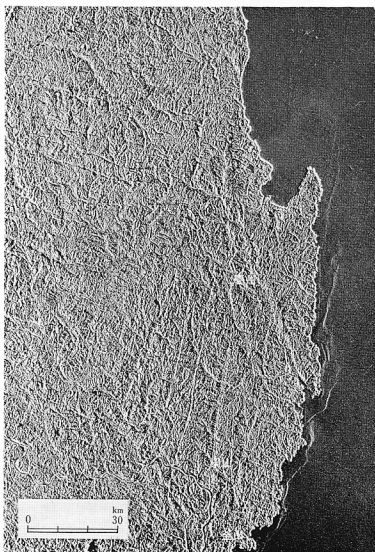


写真7

写真1と同地域の LANDSAT 映像のカラー・エッジ強調写真。本写真は4 5 7バンドの北東-南西 一次差分(微分)処理をフォールスカラー合成する手法で作成された。(作成方法の詳細は地質ニュース327号参照)